

経営比較分析表

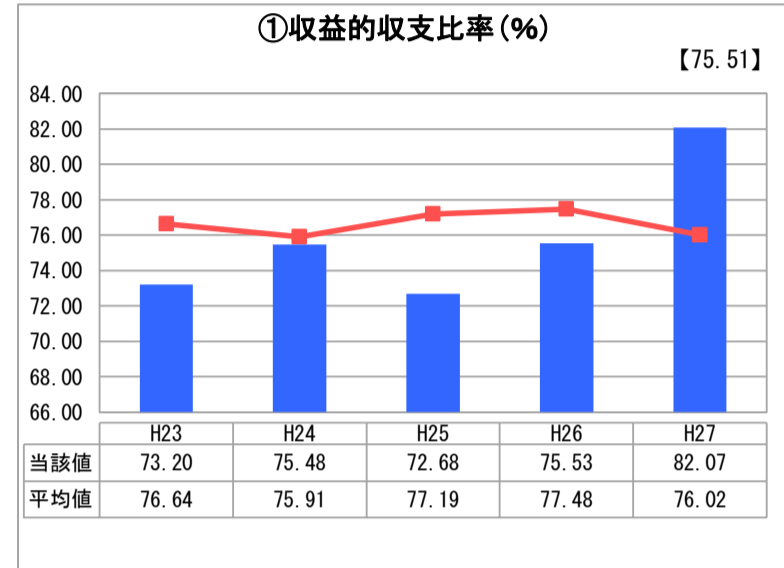
大分県 豊後大野市

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 |
|------------|--------------|---------|---------------------------------|
| 法非適用 | 水道事業 | 簡易水道事業 | D1 |
| 資金不足比率 (%) | 自己資本構成比率 (%) | 普及率 (%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円) |
| - | 該当数値なし | 28.52 | 3,140 |

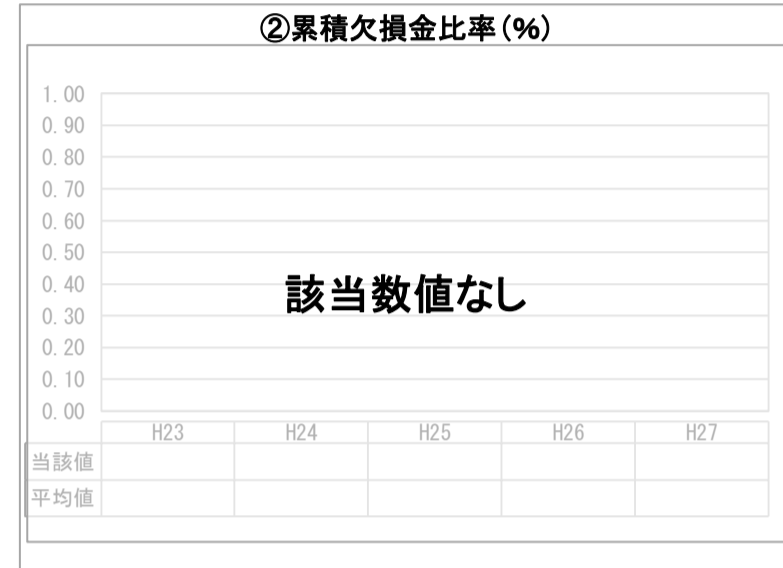
| 人口 (人) | 面積 (km ²) | 人口密度 (人/km ²) |
|------------|---------------------------|-----------------------------|
| 38,078 | 603.14 | 63.13 |
| 現在給水人口 (人) | 給水区域面積 (km ²) | 給水人口密度 (人/km ²) |
| 10,791 | 28.08 | 384.29 |

| グラフ凡例 | |
|-------|---------------|
| ■ | 当該団体値 (当該値) |
| — | 類似団体平均値 (平均値) |
| 【 | 平成27年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



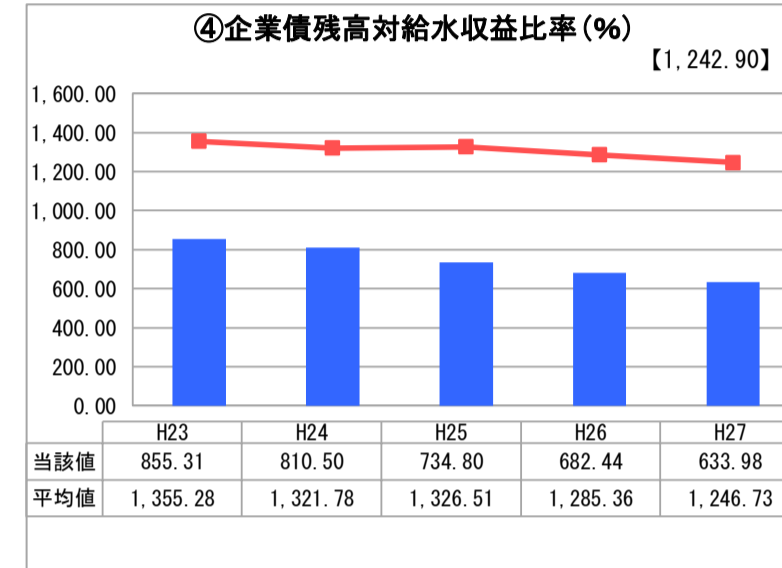
「単年度の収支」



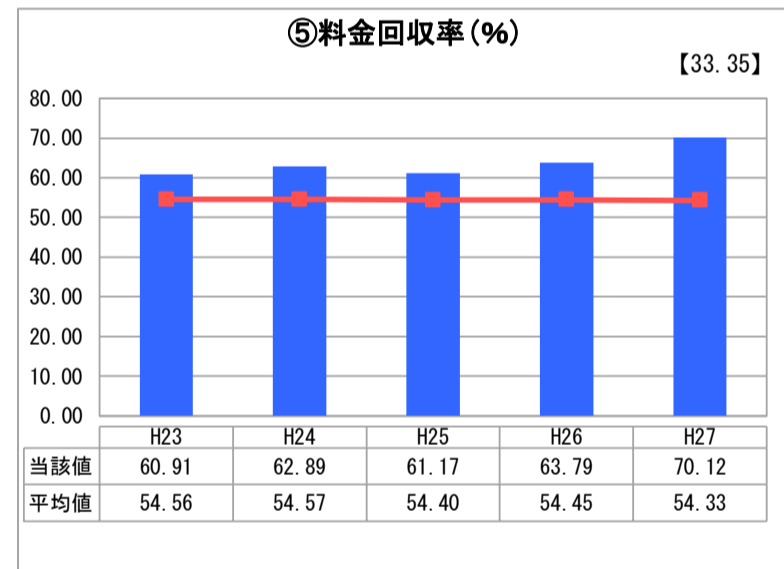
「累積欠損」



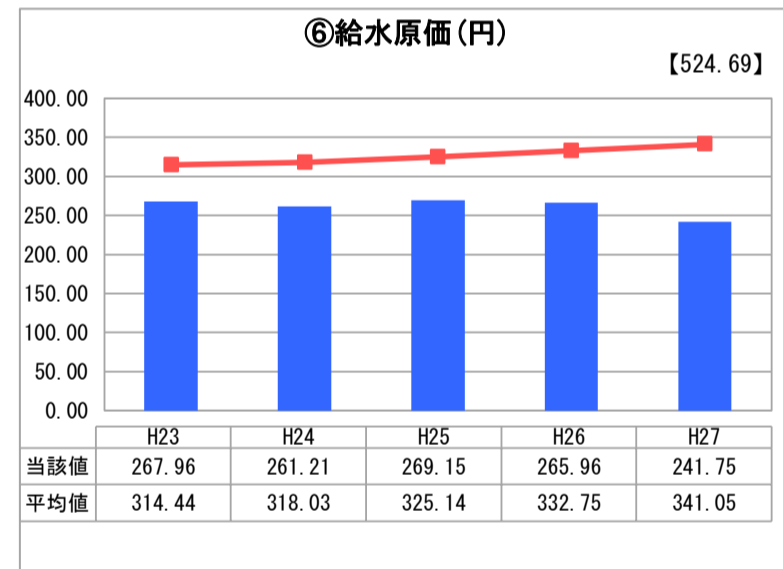
「支払能力」



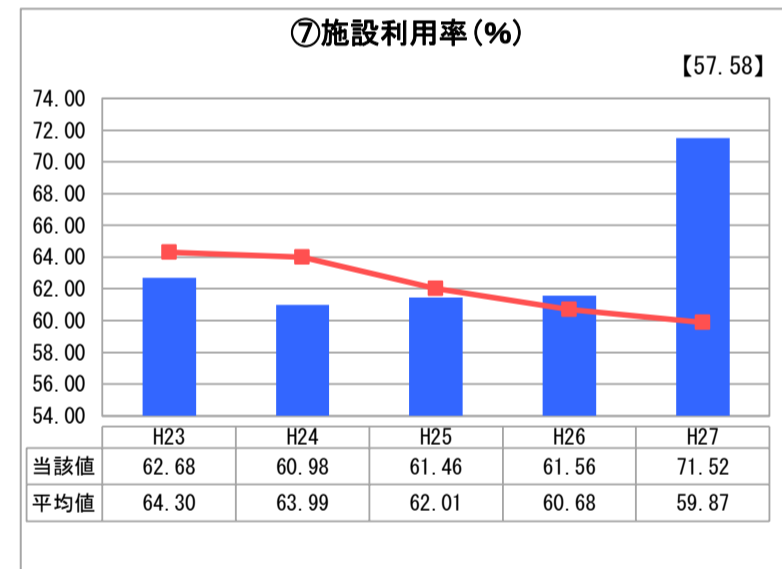
「債務残高」



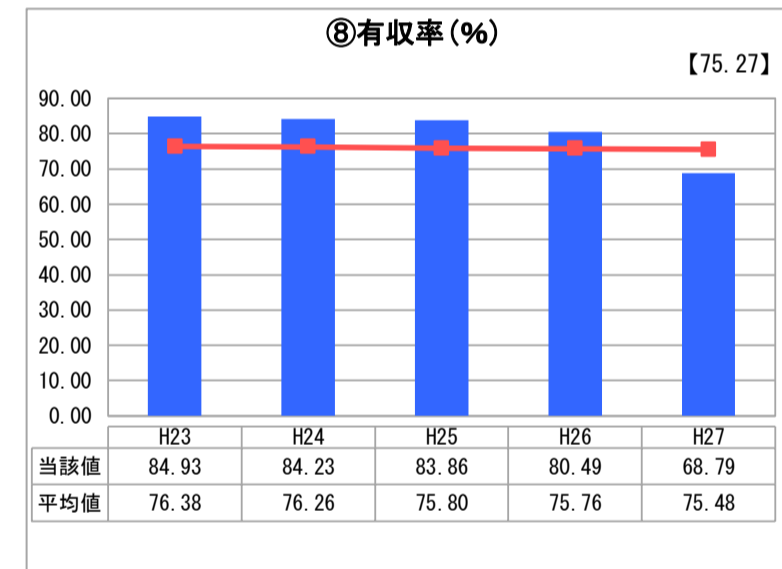
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

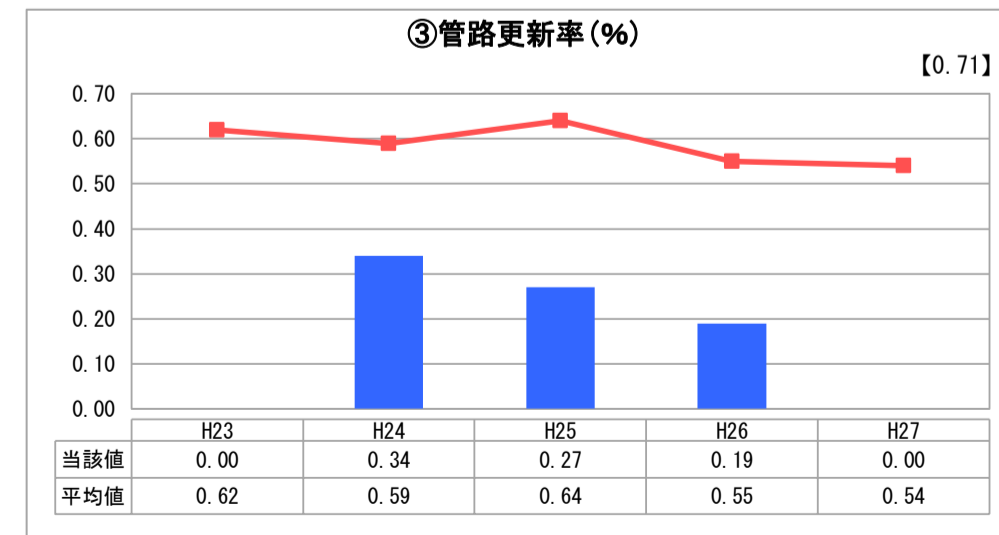
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①『**経常収支比率**』・・・経常費用が経常収益でどの程度賄われているかを示す指標。全国平均、類似団体平均を上回っており、良好ではありますが、今後とも経費の節減に努める必要があります。

④『**企業債残高対給水収益比率**』・・・給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。良好な状態にあると言えます。

⑤『**料金回収率**』・・・給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標。平年と比べ改善されていますが、今後もさらに経費の節減に努める必要があります。

⑥『**給水原価**』・・・有収水量1m³あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標。他都市と比べて低くなっており、今後も効率的な経営をしていく必要があります。

⑦『**施設利用率**』・・・配水能力に対する配水量の割合で、施設の利用状況を判断する指標。人口減少に伴い徐々に減少していたが、平年と比べ高くなっているのは寒波による漏水事故が原因と考えられる。

⑧『**有収率**』・・・施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標。平年と比べ低くなっていますが、「施設利用率」と同様、寒波による漏水事故が原因と考えられるため、計画的な老朽管の更新と定期的な漏水調査を行っていきます。

2. 老朽化の状況について

③『**管路更新率**』・・・当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標。管路の更新を行っていないため、数値には反映されていないが、耐用年数を超えている管路もあることから、計画的な更新が必要となっている。

全体総括

経営状況は、給水収益以外の一般会計からの繰入金に依存していることから、料金回収率の向上対策と費用削減を継続的に行う必要がある。また、施設、管路の老朽化に伴う更新投資も考えられることから、引き続き改善点の分析検討を行い経営改善に向けた取り組みが必要となります。今後は上水道事業への統合を計画しており、安定的な財政基盤を構築し、より徹底したコスト削減を行い、効率的な運営管理を行う予定です。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。